

学校法人城西大学 国際学術文化振興センター

# JOSAI INTERNATIONAL CENTER for the Promotion of Art and Science (JICPAS)

学校法人城西大学

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26

☎ 03-6238-1300

http://www.josai.jp/

## Newsletter

Josai University Educational Corporation  
3-26 Kioi-cho, Chiyoda-ku, Tokyo ☎ 03-6238-1300 http://www.josai.jp/

No.20

(2015.3.31 発行)



学術交流協定を締結



講演するハウリン大臣



ハウリン大臣と学生たちの交流

ブレンドン・ハウリン・アイルランド経済再生・公共支出改革大臣やアン・バリントンや城西国際大学の教職員、学生らが出迎える中、東京都千代田区の東京紀尾井町キャンパス1号棟を訪れ、ホールで調印式に臨みました。

学校法人城西大学は、ブレンドン・ハウリン大臣ならびに米倉弘昌前日本経団連会長立ち会のもと、アイルランドのリムリック大学 (University of Limerick) と学術交流協定を締結しました。水田宗子理事長の歓迎の挨拶とリムリック大学の国際交流の責任者であるパトリシア・オフラハティール博士の御礼の挨拶



日時…2015年3月18日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

### アイルランド・リムリック大学と学術交流協定を締結、 アイルランド経済再生・公共支出改革大臣の 記念講演を開催



## 国際交流活動

掘に続き、水田理事長、オフラハティール博士、ハウリン大臣、米倉氏がサインをし、両大学で協定書を取り交わしました。

この調印は2013年12月、エンダ・ケニー・アイルランド首相が来日された折に、米倉日本経団連会長（当時）との間で、日本とアイルランド共同で人材育成を行いました。この約束がなされ、それをもとに両国において大学の選定をし、アイルランド側はリムリック大学、日本側は城西大学となったものです。このような経緯もあり、日本経団連から金原主幸・国際経済本部長、ならびに大使館からアン・バリントン駐日アイルランド大使も同席での調印式となりました。今回の協定書は、日本経団連のバックアップのもと、日本でのインターンシップが盛り込まれていることが、大きな特徴です。本学にとっては、アイルランドの大学とは初めての協定締結となりました。



## パリ・エスト・クレティユ大学と学術交流協定締結

日時…2014年10月1日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

調印式に引き続き、ハウリン大臣による特別講演会が開かれました。「アイルランド経済再生の改革の重要性」をテーマに約30分にわたり講演いただきました。ハウリン大臣は公務で多忙な中、多くの学生の質問に熱心にお答えになり、留学生らと歓談して大学を後にされました。

学術交流協定の締結や現職大臣の講演会をきっかけに、アイルランドの大学との交流や

研究成果の情報交換など一層の促進が期待されます。

※リムリック大学はアイルランド・リムリック市にある大学で、1972年創立。経営や教育、科学など6学部があり、約1万7千人の学生が学んでいます。アイルランドでは数少ない日本語の学科がある大学として知られています。



協定書に調印したハーツラー氏（左）と水田理事長

学校法人城西大学は10月1日、フランスのパリ・エスト・クレティユ大学（Université Paris-Est Créteil Val de Marne、旧パリ第12大学）と学術交流協定を締結しました。本学

Paris-Est Créteil Val de Marne、旧パリ第12大学）と学術交流協定を締結しました。本学



講演するハーツラー氏

は中期目標においてグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げており、これ海外の大学との学術交流協定締結は128校となりました。また、フランスでは3校目となっています。

来日中のパリ・エスト・クレティユ大学の国際交流の責任者であるエリック・ハーツラー氏が同日、東京千代田区の東京紀尾井町キャンパス3号棟を訪れ、国際会議場で調印式に臨みました。水田宗子理事長の歓迎の挨拶とハーツラー氏の御礼の挨拶に続き、両大学の紹介がビデオなどで行われました。森本雅憲・城西大学学長や柳澤伯夫・城西国際大学学長ら幹部教職員らの挨拶の後、水田理事長とハーツラー氏は2日には城西国際大の千葉東

金キャンパスと安房キャンパスを訪問、3日は東京紀尾井町キャンパスで「グローバルゼーションとフランスの高等教育システム」と題して講演会を開きました。

パリ・エスト・クレティユ大学は、パリやクレティユ、ヴェルサイユの3大学区にある13の国立大学（これらを総称してパリ大学と言う）の一つで、1970年に創立されました。医学や国際関係、法学、文学、語学、経済などの学部や研究所を持ち、約3万人の学生が学んでいます。毎年、世界各地から約3千人の留学生を受け入れており、本学とも学生の交流のほか、研究成果の情報交換などの促進が期待されます。



## チェコ共和国産業貿易省大臣が来学、講演を開催

日時…2014年11月13日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2014年11月13日、チェコ共和国のヤン・ムラーデク産業貿易省大臣が東京紀尾井町キャンパスを訪問され、講演と学生たちとの交流が行われました。ムラーデク大臣は、プラハ経済大学（University of Economics Prague）で経済学、カレル大学（Charles University in Prague）で数学を学ばれ、チェコ応用経済学研究所長やチェコ財務省第一副大臣、チェコ農業省大臣などを歴任して今年から産業貿易省の大臣を務めておられます。

本学は、グローバル人材の育成に向けた国際交流活動を掲げて世界のさまざまな大学と国際交流を進めるなか、特にハンガリー、

ポーランド、チェコ、スロバキアのヴィシエグラード4か国（V4）を構成する中欧諸国の大学に関して、学生交流および人材育成に積極的に取り組んできました。こうした取り組みを一層進めるため、2013年11月には法人本部に中欧研究所を設けました。

チェコでは、プラハ経済大学やカレル大学、マサリク大学（Masaryk University）の3大学と学術交流協定を締結し、経営する城西国際大学で昨年からは、また城西国際大学では今年からチェコの留学生を受け入れています。こうした取り組みが評価され、来日したムラーデク大臣の本学訪問が実現しました。





講演するムラーデク大臣

チェコやハンガリーからの留学生や両大学の日本人学生の出迎えを受けたムラーデク大臣やトマーシユ・ドゥプ駐日大使ら一行は、水田宗子理事長や森本雍憲城西大学学長、柳澤伯夫城西国際大学学長ら大学関係者とお会いになりました。水田理事長は「ご多忙中、訪問いただき光栄に思います。講演は、学生たちがチェコの状況を学ぶ貴重な経験となります」と挨拶しました。これに対し、ムラーデク大臣は「こうした機会を与えていただき、感謝しています」と述べられました。この後、チェコからの3人の留学生と、今年、城西大学の職員となった元留学生の計4人が歓迎の挨拶をしました。



ムラーデク大臣と学生たちの交流

ムラーデク大臣は「チェコ共和国と日本」をテーマに講演をされました。チェコはEUのコアメンバーで、日本がEU市場に進出するための有望な入り口になる、などと強調されました。質疑応答では、留学生と大学院生から質問があり、ムラーデク大臣は丁寧に答えられていました。最後にチェコ語を学ぶ城西国際大学国際人文学部国際交流学科2年、増本稔さんがチェコ語で講演のお礼をムラーデク大臣に伝えると、ムラーデク大臣は笑顔で応えられました。また、講演会には大鷹正元チェコ大使と大鷹節子日本チェコ友好協会名誉会長のご夫妻も参加され、熱心に耳を傾けておられました。

講演会後は、ムラーデク大臣の強い希望で学生との交流の場が設けられました。スケジュールの制約で約20分という短い時間でしたが、チェコ語を学ぶ学生、チェコやV4からの約30人の留学生ら一人ひとりと会話をされました。学生や教職員の拍手に送られた一行は口々に感謝の言葉を述べて本学を後にされました。ムラーデク大臣のご訪問を契機として今後、チェコの大学との一層の交流推進が期待されます。



森元大使と発表されたばかりのノーベル物理学賞受賞のプレスリリースを手に

今回、水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学一行6名は、2014年10月5日から11日の日程で、スウェーデンを訪問しました。主な訪問先は、駐日スウェーデン大使公邸、民俗博物館、瑞暉亭、カロリンスカ研究所と同病院、ストックホルム近代博物館、東アジア博物館、ストックホルム商科大学欧州日本研究所、ウプサラ大学です。前駐日大使であるラシユ・ヴァリエ氏に各所のご紹介ならびに同道をいただき、森元誠二スウェーデン大使をはじめ、瑞日協会会長カイ・フォークマン氏、ストックホルム商科大学欧州日本研究所所長マリイ・ソーデルベリ教授、ウプサラ大学エヴァ・オーケソン学長等と面会し、スウェーデンと本学の学术交流について大きな成果を挙げることができました。

また、本訪問団が大使公邸をお訪ねしているときにちょうどノーベル物理学賞の発表がなされ、大使、瑞日協会理事のみなさんとともに日本人の受賞を喜ぶことができました。今後は、各大学、研究所との交流の進展をはかり、ならびに来たる2018年の瑞日交流150周年記念に向けて、実りある活動を行っていきたくと考えています。

**スウェーデンの大学等を訪問**

日時…2014年10月5日～11日  
場所…スウェーデン王国

国際交流活動

森元大使主催による昼食レセプションが催され、水田理事長のスウェーデン訪問にあわせて元駐日スウェーデン大使のラーシュ・ヴァリエ氏、元参事官のカイ・レイニウス氏をはじめとする在スウェーデンの瑞日友好協会の理事がご参集くださいました。2018年に瑞日交流150年を迎える両国にとって、今後の文化、若い世代での文化、学術交流などを中心とした交流促進についての意見交換が昼食会を通して活発に行われ、今後の関係をますます深化させるべく努力していくことを約束しました。

### 民俗博物館内「瑞暉亭」を訪問

瑞暉亭とは、1935年日瑞協会会長であった藤原銀次郎氏により、スウェーデン国立民俗博物館に寄贈されたお茶室が、1969年に焼失、その後、1989年に日本の製紙業4社の寄付により再建され、再度民俗博物館に寄贈されたものです。今回、水田理事長が日本スウェーデン協会会長になられたことをうけ、今後の2018年日瑞交流150周年の記念の年に向けて、メンテナンスタイプの方法などを考えるために視察されました。

当日は、民俗博物館の Lotten Gustafsson Remis 館長もおいでいただき、日本エリアの展示も案内いただきました。その後、前日本人会会長の小牧游氏、日本人会会長金子葉子氏の案内により、スウェーデン裏千家のみなさんのお点前を瑞暉亭にていただきました。紅葉の美しく舞いしきる中でのお茶会は、心に残るものでした。貴重なお茶室でするので、日本文化を知らせる有効利用を考えてまいりたいと思います。

### 独立行政法人日本学術振興会 ストックホルム研究連絡センターを訪問

城西大学の杉林堅次教授、城西国際大学の佐

野智子准教授が独立行政法人日本学術振興会ストックホルム研究連絡センター長の阿久津秀雄先生（大阪大学名誉教授）に面会しました。

本施設は、北欧5か国およびバルト3国と日本との学術交流支援機関です。当日はノーベル化学賞発表日にあたったため他の職員は不在でしたが、阿久津所長自らからJSPSストックホルム研究連絡センターの業務について丁寧に説明いただきました。

日本との研究交流だけでなく、学生交流の推進も手掛けていますが、JSPSストックホルム研究連絡センターではノルウェーへの足掛かりがまだできていないとのことでした。JIUにオスロ大学から毎年20名が来ていることから、JSPSストックホルム研究連絡センターと連携できる可能性が考えられます。

### カロリンスカ研究所および附属病院を訪問

カロリンスカ研究所は、名称は研究所ですが実際は医科大学であり、ノーベル生理学・医学賞の選考委員会の設置場所でもあります。世界最大、ヨーロッパを代表する研究機関にふさわしいレンガ造りの美しいキャンパスで、入口にはノーベル記念館があり、関係の講演会が数多く開催されているとのことでした。現在、スウェーデンを牽引する医大となっています。

カロリンスカ研究所附属病院も見学させていただきました。玄関を入ると、総合受付があり、その後ろには、明るいレストラン（カフェテリア）が設置されていました。ちょうどお昼時に伺ったため、多くの方が食事をとられていました。病院内のコンビニも明るく、日本の病院一階とは大きく異なっていたのが印象的でした。門前薬局も訪問しました。処方箋の受付部分と調剤所だけでなく、一般用医薬品コーナーと化粧品などが置かれたドラッグストア部分がありました。日本の調剤薬局にはOTCなどはほとんどおかれていません（本来、

薬局は医療用医薬品の調剤ができ、一般用医薬品と健康維持関連雑貨があることが望ましい）ので、学ぶことが多くありました。

### ストックホルム大学東洋言語学部 日本語学科を見学

ストックホルム大学は、近代的な大きな建物が並ぶメインキャンパスとレンガ造りの建物が点在するキャンパスの二つからなっています。日本語学科は後者にあり、約150名の学生が日本語を学んでいました。今年6月に杉林教授が訪問したワルシャワ大学日本語学科と同様の規模とと思われます。

### 東アジア博物館にて Kai Falkman 氏 （瑞日協会会長）と面会

湖を一望できる美しい東アジア博物館のレストランにて、元駐日公使で、スウェーデン俳句協会会長でもある瑞日協会会長の Falkman 氏をお目にかかりました。世界の



現代絵画を見学するフォークマン瑞日協会会長と理事長

あらゆる文学、そして日本文学、歴史に大変造詣が深く、興味深いお話を多く聞かせていただきました。その後、東アジア博物館内の中国、韓国、日本の展示エリアを案内いただき、続いて、現代美術が展示された近代博物館も案内いただきました。

### ストックホルム商科大学を訪問

ストックホルム市内にあるストックホルム商科大学にてマリー・ソーデルベリ教授を訪問しました。ソーデルベリ教授は、欧州日本研究所の所長も兼ねておられます。今回の訪問では、欧州日本研究所のオフィスを訪問させていただきました。ストックホルム商科大学は、1909年に創立された歴史ある単科大学で、国際経済分野で有名なヘクシャー・オリオン・モデルの両氏が教鞭をとった大学としても知られています。またノーベル経済学賞にも大きな影響を与える研究機関としても世界的に知られています。



ストックホルム商科大学欧州日本研究所にてミーティング





ウプサラ大学学長とリンネの部屋でヴァリ工前スウェーデン大使とともに

### ウプサラ大学を訪問

ソーデルベリ教授との面会においては、EUにおける欧州日本研究所の役割や近年の日本経済社会について等、広範にわたって意見交換が行われました。水田理事長からは、日本社会における女性の社会進出の課題や家族内における女性の役割などについて紹介され、ソーデルベリ教授からは、社会的には女性の社会進出が進んだスウェーデンにおいても、いまだ企業内では女性の企業役員への登用が少ない事例などが紹介されました。

今後、学校法人城西大学とストックホルム商科大学の交流を進めるべく、大学間交流について意見交換を行い、継続的に話し合いを重ねていくこととなりました。城西大学と城西国際大学には経済・経営領域の学部が3学部もあり、多くの学生と教員を有していることから、今後のストックホルム商科大学との学術交流を具体的に話し合い推進していくことを確認して訪問を終えました。



ウプサラ大学貴重本ライブラリにてハリー・マーティンソンの手稿を手に

### ウプサラ大学図書館を見学

ストックホルムの北70kmにあるスウェーデン第4の都市ウプサラ（人口20万強）に向かい、ウプサラ大学を訪問しました。同大学は1477年創設で、神、法、医、薬、科、言、教、社、芸の9学部、学生数4万人を超える北欧最古の大学です。

エヴァ・オーケソン学長に、リンネの間で面会し、本学を紹介、両大学間の交流の可能性について懇談しました。女性のトップ同士でもあり、女性学の分野や社会における女性の活躍について、日本での近年の進展に強い関心を示され、医療・福祉分野や語学・芸術分野等での教員・学生の交流など、担当者を変えたランチミーティングでの懇談に引き継がれました。

北欧最古の大学には、12の図書館があります。今回はメインの最も古い図書館エリアをご案内いただきました。建物の1階の一部に博物館が設置され、銀製の聖書、モーツァルト魔笛の楽譜など貴重なものが展示されています。

### ウプサラ大学でのミーティング

ウプサラ大学文学部長の Ann Öhrberg 教授、文学部の Anna Williams 教授、そして Erika Dahlbäck 国際交流課課長の同席のもと、両大学の具体的な交流についてミーティングがなされました。

まず、当方よりマイ・ゼッターリング・プロジェクトやラウル・ワレンベリ記念の植樹式、ヴァリ工前大使のご講演、チカダ賞国際シンポジウムなどこれまでの本学とスウェーデンの関わりなどを紹介し、相互理解を深めました。

先方からは、日本のポップカルチャーの影響により、スウェーデンでは日本語を学びたい学生は多いというお話を伺い、本学における優れた日本語教育と交換留学について説明しました。同時に、本学にはメディア学部や国際人文学部があり、日本文化について学ぶことができるということや英語だけで単位修得が可能な Global College についても紹介をしました。

ウプサラ大学からは学生のインターンシップの可能性についても問いがあり、これまでオスロ大学において日本語教授法のインターンシップを実施していることなども伝え、お互いに興味を示しておられました。

また、水田理事長より学生交流、スウェーデン語のクラス、教員の派遣についての提案もなされ、今後の交流が楽しみです。

### ウプサラ大学附属病院を訪問

病院に入ると、カロリンスカ病院同様に、明るい雰囲気オープンカフェとコンビニがあり、多くの人びとが利用していました。

病棟について、Michael Köhler 循環器科部長にご案内いただきました。救急病棟、リウマチ病棟、腎臓内科病棟を見学しました。特に救急病棟では、廊下と病室の間がカーテンだけになっており、医療職が患者を診やすくなる配置がされていたことが印象的でした。

この後、セミナー室で全体説明を受け、建物ごとに診療科が違うこと、スウェーデンの病院は形成外科治療が特に優れていることなどが説明されました。終了後、保険制度の違いなどに関連して日本とスウェーデンの医療費、医療システムなどの違いについて質疑が交わされました。



ウプサラ大学附属病院にて

# 学校法人城西大学一行がマレーシア、ベトナムを訪問



日時：2015年1月23日～31日  
 場所：Management and Science University, プレーン,  
 Ho Chi Minh City University of Transport, Ho Chi Minh  
 City University of Technology and Education, Ho Chi  
 Minh City University of Technology, and Foreign Trade  
 University, ハノイ

## マレーシアMSUより水田理事長に 名誉博士号授与

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学一行《北村幸久（理事長室室長）、石田益実（副学長・観光各部教授）、杉林堅次（大学副学長・薬学部スーパーバイザー）、川野有佳（准教授、国際交流学科）、スミス・ジョーダン（准教授、国際文化学科）、ロメイ・ドゥシェーン（助教、メディア学部）》は、2015年1月23日から31日の日程で、マレーシア、ベトナムを訪問しました。



王妃より名誉博士号を授与される水田理事長

マレーシアでは、24日、首都クアラルンプール郊外の Shah Alam にある姉妹校の Management and Science University (MSU) を訪問しました。水田理事長は、長年の研究業績・女性の地位向上に対する取り組みが評価され、同大学から名誉博士号をいただくことになり、その授与式が行われました。水田理事長には、同大学の理事長でもある Raja Permaisuri Agong Tuanku HAJAH Hamidah 王妃陛下から名誉博士号が授与されました。

水田理事長は「MSUと城西大学・城西国際大学は、経済、経営、観光を中心とした実務に即した文系社会学部と健康・医療系を中心とした医療・理系学部が総合的に構成されており、教育目標が非常に近いものでした。MSUと城西はお互いに協力し合って、マレーシア・日本、アジア、そして世界のリーダーとなる、社会を牽引する人材を育成していけるのではないかと考え、交流が始まりました。学生交流は、2012年度から始まり、本学からのべ65名の学生が、貴学で学んでおります。また、MSUから本学へはのべ34名の学生がきており、現在12名の学生たちが、薬学部において学んでいます。この名誉博士号が、私にとってきわめて名誉なことであり、大変うれしく思っています。今日から、私は、MSUのメンバーとなりましたので、今後、両学の交流をさらに推進してまい

りたいと考えます」と受賞の喜びの言葉を述べました。

## マハティール元首相に本学での講演を依頼

25日には、水田理事長らは、首相を22年間もつとめたマハティール・ビン・モハド氏の自宅を表敬訪問しました。同氏は、首相時代にASEAN（東南アジア諸国連合）のリーダーとして地域の活性化に活躍、日本の経済成長を見習おうという「ルックイースト政策」を推し進め、マレーシアの国力を飛躍的に増大させた方です。

学校法人城西大学は、水田三喜男・元蔵相が1965年に創立して以来今年で50周年を迎えます。その記念事業の一環として、内外から世界的に影響力のある方、優れた研究業績を残された方、20世紀後半の社会文化の発展に素晴らしい業績を残された方などをお招きし、グローバル人材養成に資することを目的とする水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」



マハティール氏宅で

シリーズを4月からスタートさせます。席上、水田理事長は、マハティール氏にその出席をお願いしました。マハティール氏は、本学での講演をお引き受け下さる、とのことでした。

## ベトナムの4大学と調印

この後一行は、ベトナムに向かいました。ベトナムの訪問目的は、四つの大学との学術交流協定締結と高校生ら若い世代に日本、本学の魅力を紹介し、「日本に学ぶ」意義について説明することでした。

最初の訪問地のホーチミンではホーチミン市交通大学 (Ho Chi Minh City University of Transport)、ホーチミン市工業大学 (Ho Chi Minh City University of Technology and Education)、ホーチミン市技術師範大学 (Ho Chi Minh City University of Technology, HUTTECH) の3大学、ハノイではベトナム屈指の大学である貿易大学 (Foreign Trade University) を訪問しました。



ホーチミン市交通大学で調印式



水田理事長は、それぞれの学長との間で  
学術交流・交換留学について協定書を交わ



HUTECH との調印式



ホーチミン市技術師範大学にて記念撮影



貿易大学学長と

しました。各大学からは「日本語教師を派遣してほしい」、「城西から短期留学生を受け入れるとともに、ベトナムからも留学生を送り出したい」などの要望が寄せられました。

### 高校ならびに トイチェ新聞社訪問

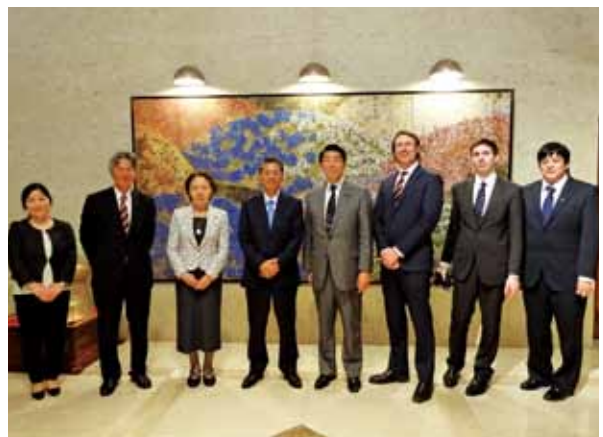
また、一行は滞在中、現地の高校や日本語学校、新聞社を訪問しました。ホーチミン市では Ngoi Sao 高校、Le Quy Don 高校のほか東遊日本語学校 (Dongdu Japanese Language School) を訪問。また、ハノイでは Viet Duc 高校、Gin Binh 第一高校、Luong Tai 第一高校、Ky Thuat Viat Tri 高校など6校と日本語学校の Akira Language Education、タンロン技術学院にも出向きました。いくつかの高校では約500人の生徒が集まり、城西一行の説明を熱心に聞いていました。



Gia Binh 第一高校での説明会

### 深田大使、中嶋総領事訪問

ベトナム滞在中、水田理事長一行は、日本の海外公館も訪問しました。ホーチミン市では中嶋敏・総領事、ハノイでは深田博史・特命全權大使を表敬訪問しました。深田大使は「ベトナム



深田ベトナム大使訪問

### 中欧研究所新任派遣研究員が着任

日時…2014年10月1日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



わが国初の当該地域に関する研究機関として2013年設立された学校法人城西大学中欧研究所に、このほど、私たちの活動をさらに強化する二人の教員がハンガリーから来日しました。

2013年11月にハンガリーのオルバーン首相が来学された際、本学とハンガリーとの

ムから日本に留学する若者が急激に増えており、現在、8千人が学んでいます。私もできる限り、城西とベトナムの若い人たちの交流を支援していきたい」と話しました。また、ホーチミン市では、最大部数を誇るトイチェ (ToiChe) 新聞が水田理事長にインタビューを行いました。

友好関係の促進のため、二人の教員の派遣を約束、日本の大学には初めての教員派遣となります。ハンガリー人材省からの派遣により、中欧研究所が受け入れ機関となります。10月から半年間、研究と学部・大学院の教育・研究に取り組まれます。



左からシュミット・アンドレア先生、プレブク・アニコ先生

プレブク・アニコ先生はハンガリー東部、第二の都市デブレツェンにあるデブレツェン大学人文学部の准教授で、専攻は歴史学です。すでに、著書の日本語訳「ロシア・中東欧ユダヤ民族史」（彩流社、2004年）があり、中東欧地域のユダヤ史の専門家です。

最近の関心は、ハンガリーにおける第二次世界大戦期のホロコーストの問題です。

シュミット・アンドレア先生はハンガリー南西部の都市ベーチにあるハンガリー最古のベーチ大学人文学部の助教で、専攻は国際関係論です。V4諸国（チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキア）関係の専門家として、V4諸国の大学院文学修士レベルの共通プログラム作成のために奔走されています。国際化を進める本学にとって、大学間協力の実務の貴重な話も聞けるものと思われま

す。2014年9月にはボシュティアン・ベルタラニツチ先生が城西大学・現代政策学部准教授として着任されました。中欧のスロヴェニアの出身で、専攻は国際関係論です。国連と日本外交、第一次世界大戦期に日本に連れられたハプスブルク帝国出身者捕虜の問題を研究しています。

これらの先生を新たなメンバードとして、中欧研究所は国際シンポジウム、学術雑誌の発行とともに、学生や院生、さらには学外に対しても広報活動を行ってまいります。



## 「グローバルビジネスリーダー育成プログラム」をスタート

日時：2014年10月18日～12月8日  
場所：カリフォルニア州立大学ロングビーチ校、アメリカ合衆国

城西国際大学経営情報学部では、授業の一環としてカリフォルニア州立大学ロングビーチ校 (California State University, Long Beach, CSUB) へ留学する「グローバルビジネスリーダー育成プログラム」をスタートしました。このプログラムは、経営情報学部生のために準備した特別なプログラムであり、学生たちは、海外で語学・ビジネスを総

合的に学び、グローバルな発想や行動力を養っていきます。国際大学だからこそ可能になる、新しいプログラムです。

2014年9月早々に募集を開始、多数の学生が説明会に参加しました。留学手続き、ビザ申請書類の準備、大使館での面接、出発までの手続きは、学生たちにとって初めての体験、海外で勉強するための多くのス



東金キャンパスでの準備説明会（9月26日）

テップを学びました。最終的に42名の学生が第1期生として派遣されることになりました。留学期間は約7週間、英語をレベル別コースで学び、ビジネス・スポーツ関連の特別クラスで専門性を高



## JOSAI KIOI CLUB 2014「テオトコス(主の母マリア)少年少女合唱団クリスマスコンサート」を開催

日時：2014年12月2日  
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2014年12月2日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）東京紀尾井町キャンパスのホールでルーミアニアの「テオトコス少年少女合唱団」のクリスマスコンサートが開かれました。

同合唱団は、ルーミアニアのトランシルバニア地方、アルバユリア市にあるマエリ・ルーミアニア正教会所属の聖歌隊が主体となっており、11歳から18歳までの37人がメンバーで

め、アメリカのビジネスの現場を体験し、外国の地から日本のビジネスを考えていきます。そして、グローバル人材を目指す学生の勉強意欲を奨励して、経営情報学部独自の奨学金が授与されることになりました。

10月17日、東京紀尾井町キャンパスにおいて、水田宗子理事長より留学派遣学生代表4名に奨学金が授与されました。カリフォルニア州立大学ロングビーチ校での授業料相当額を奨学金として授与した学生を代表して、経営情報学部4年藤本さんが「自己のキャリア形成計画をもって、グローバル人材として必要な能力を身に付けるためにアメリカでの勉学に励み、帰国後もグローバルカレッジにより自己研鑽していきます」と力強い抱負を述べました。

●グローバルビジネスリーダー育成プログラム留学生による報告ホームページ  
<http://csulbjib.blogspot.jp/>

す。ルーミアニアの文化大使として今回、初来日しました。開催にあたっては、ルーミアニア大使館、日本・ルーミアニア協会の後援をいただきました。

コンサートに先立ち、ラドゥウ・シエルバン駐日ルーミアニア大使が「歌の中に彼らの信仰心が表現されています。これが天使の歌声を想像させます」と挨拶されました。合唱団はルーミアニアのクリスマスキャロルやインター





挨拶するシエルバン大使

ナショナルなクリスマスソングのほか、「赤とんぼ」や「花は咲く」など約20曲を清らかなハーモニーで披露しました。森本雅憲・城西大学学長ら教職員、日本・ルーマニア協会の関係者、キャンパス近隣の方々、エクステンション受講者の皆さんなどホールを埋めた約160人から盛んな拍手を受けました。

コンサート後のレセプションの挨拶で、日本・ルーマニア協会の猪谷晶子理事長は「水田理事長はじめ城西大学の皆さまにお世話になり、このような機会を設けていただき感謝いたします。子どもたちの中に将来、城西大学に留学する子がいてくれたらと思っ

## 「エヴァ・ヴァリエ Fibers & Fragments Selected Works 1998-2014」展覧会を開催

日時：2015年2月17日  
場所：城西大学水田美術館



「エヴァ・ヴァリエ Fibers & Fragments Selected Works 1998-2014」のオープニングレモニーが2月17日に行われました。展覧会に先立ちテープカットが行われ、水田理事長より、「水田美術館でエヴァ展を開催できることを嬉しく思います。作家の感性が溶け込んだ作品をぜひご堪能ください。」とご挨拶がありました。また、工芸作家エヴァ氏より、「この美術館で展覧会を行うことができ感謝しております。多くの皆さまに楽しんでいただきたいと思います。」とお話がありました。展覧会は、3月14日まで開催されます。日本の謡本を用いた作品を含め、1998年から2014年までに制作された作品を紹介し



水田理事長、エヴァ氏、ご来賓の方によるテープカット

ヴァ・ヴァリエ氏の作品世界をお楽しみください。

## ミコラス・ロメリス大学インガ・ザレーニエーネー 副学長が来学

日時：2015年3月31日、4月2日  
場所：城西国際大学東金キャンパス



2015年3月31日、リトアニア共和国のミコラス・ロメリス大学 (Mykolas Romeris University) のインガ・ザレーニエーネー副学長が今後の国際交流推進の打ち合わせに、来学され、4月2日には城西国際大学の入学式にご臨席いただきました。

本学とミコラス・ロメリス大学とは2013



城西国際大学の入学式で祝辞を述べられるミコラス・ロメリス大学のインガ・ザレーニエーネー副学長

年12月に学術交流協定を締結しています。それに基づき、本学は、同大学が主体となり欧亜8か国の大学で組成した、高等教育機関と企業が連携し社会的な技術革新を通じて安心快適で一人ひとりを包摂する社会の創造を目指すことを目指したコンソーシアムである、Knowledge Consortium Social Technologies for Smart and Inclusive Society (SOCIETY) に参加しています。今回ご来学の目的の一つは、学生・教員の交換プログラムを視野に入れた交流の推進であり、本学教員との間で活発に議論が交わされました。また、2日の入学式では祝辞を述べられ、「高等教育の国際化はそれぞれの学生にとって、自らの視野を広げ、新しい体験を通じて成長する絶好の機会であり、このチャンスをとらえて世界に貢献できる人材に育って欲しい」と、学生を激励されました。今後、同大学との交流が一層活性化することが期待されます。

## 講演会・シンポジウム

### 鼎談 「Modern Poetry Event II 大地の中に染みる音… 女性と詩の世紀をふりかえって」を開催

日時：2014年11月7日  
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



学校法人城西大学（水田宗子理事長）は 2014年11月7日、東京都千代田区の東



左から伊藤比呂美氏、文貞姫氏、水田宗子氏

府が生命の尊厳を表現する東アジアの詩人を対象に贈っている賞です。2013年12月、比較文学者で詩人でもある水田氏が6人目、日本人では3人目の受賞者になりました。これを記念して開かれた同シンポジウムで、パネリストの一人として参加した第5回受賞者の文氏と水田理事長が再会を約束。両氏に加えて80年代の女性詩ブームをリードし、女性による詩のイメージを革新した伊藤比呂美氏も迎えて、今回の鼎談が実現しました。

京紀尾井町キャンパスで「女性と詩の世紀を振り返る」をテーマにした鼎談「Modern Poetry Event II 大地の中に染みる音」を開きました。韓国の文貞姫氏と伊藤比呂美氏、水田宗子氏の3人の著名な女性詩人が、詩との出会いから妊娠・出産、外地体験などについて語り合いました。

2014年6月7日に城西大学で開かれた「チカダ賞受賞記念国際シンポジウム (International Symposium Commemorating Winners of the Chikada Prize)」に続く詩のイベントです。チカダ賞は、スウェーデン政

府が生命の尊厳を表現する東アジアの詩人を対象に贈っている賞です。2013年12月、比較文学者で詩人でもある水田氏が6人目、日本人では3人目の受賞者になりました。これを記念して開かれた同シンポジウムで、パネリストの一人として参加した第5回受賞者の文氏と水田理事長が再会を約束。両氏に加えて80年代の女性詩ブームをリードし、女性による詩のイメージを革新した伊藤比呂美氏も迎えて、今回の鼎談が実現しました。

鼎談の冒頭、3氏から詩との出会いなどについてそれぞれ発言がありました。伊藤氏は「詩の原動力は18歳で経験した摂食障害だった。私の詩は社会には向かわず自分の体に向かっていた」と述べたのに続き、文氏は「結婚したら伝統という大きな怪物が待っていた。かわいい詩だけでは不十分だと気付いた」などと語りました。また、水田氏は「世代の違いは女性の表現を考える点で興味深い。二人の話はフレッシュで衝撃的」と話しました。その後は、出産や母性、家長長制、外地体験などをテーマに3氏の話が弾みました。会場では詩人や教職員、学生ら約170人が耳を傾け、熱心に質問する姿が見られました。また、フリートークのときには、高橋睦郎さんが飛び入り参加し、会場が大いに沸きました。鼎談の後、聴衆も交えてレセプションが和やかに開かれ、3氏による自作の詩の朗読も行われました。

## 学校法人城西大学創立50周年記念・ウプサラ大学・城西大学合同シンポジウムを開催

講演会  
シンポジウム

日時：2015年3月30日  
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2015年3月30日、学校法人城西大学は

創立50周年を記念して東京紀尾井町キャンパス



参加者全員によるパネルディスカッション



休憩時間にはお茶会の「おもてなし」

ス1号棟ホールで、スウェーデン・ウプサラ大学 (Uppsala University) と合同シンポジウム「スウェーデンと日本における女性学および文学 (Women's Studies and Literatures in Sweden and Japan)」を開催しました。シンポジウムには、パネリストとして本学から比較文学者で詩人である水田宗子理事長はじめ4人、ウプサラ大学からアン・オールベルク文学部長はじめ4人が参加しました。また、ジェンダー関係のシンポジウムということもあり、ヘレナ・ドルノウシエク・ゾルコ駐日スロベニア共和国大使も参加、城西大学と女性学の講座を持つ城西国際大の教職員や学生・留学生のほか、多くの研究者の皆さんや日本スウェーデン協会 (会長・水田理事長) の皆さんら約160人が熱心に聞き入りました。

ウプサラ大学は1477年に創設された北欧最古の大学です。ヨーロッパの最も権威のある高等教育・研究機関の一つであり、15人の大学関係者 (卒業生、教員など) がノーベル賞を受賞しています。また、植物学の父と

されるカール・フォン・リンネが学んだ大学としても知られています。昨年10月、ウプサラ大学の卒業生で前駐日スウェーデン大使のラーシュ・ヴァリエ氏 (退官後に城西国際大学の特任教授) の紹介で、本学の一行がウプサラ大学を訪問したことが縁で、この日の合同シンポジウムが実現しました。

水田理事長はシンポジウムの冒頭、「光栄でうれしく思うのは、このように早く皆さんをお迎えできたことです。スウェーデンと日本の将来のコミュニケーションの出発点になることを願っています」と歓迎の挨拶をしました。この後、ヴァリエ氏も参加して二つのセッションで、両国の女性文学や女性表現、スウェーデンが先進国のジェンダー研究などを巡ってそれぞれ発言や討論があり、最後は参加者全員によるパネルディスカッションが行われました。討論の締めくくりでオールベルク文学部長は「スウェーデンはジェンダー研究の先進国と言われるが、自己満足してはいけない。常に前に進まなければならない」



と語り、「本日のシンポジウムで日本文学と日本文化、そして城西大学について多くのことを学びました」と感謝の言葉を述べました。シンポジウム開催を記念して、一階ギャラリーにおいては、美術館から浮世絵を「Ukiyo & Special Exhibition」として特別展示、福祉総合学部による活動紹介の展示がなされ、ウプサラ大学一行をはじめ来場者も興

味深く見学をしました。休憩時間には、城西国際大学の茶道部によるお茶の、おもてなしがあり、シンポジウム終了後はレセプションが行われ、交流を深めました。合同シンポジウムをきっかけに、ウプサラ大学をはじめとするスウェーデンの大学とのさらなる交流や研究成果の情報交換など一層の促進が期待されます。

## マリー・ソーデルベリ教授による講演会

### 「日本と欧州の経済関係」を開催

講演会  
シンポジウム

日時：2014年10月28日  
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2014年10月28日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）はスウェーデンのストックホルム商科大学（Stockholm School of Economics）欧州日本研究所長のマリー・ソーデルベリ教授の講演会「日本と欧州の経

済関係」を、東京紀尾井町キャンパス3号棟の国際会議場で開催しました。ストックホルム商科大学は、1909年に創立された歴史ある単科大学で、ノーベル経済学賞にも大きな影響を与える研究機関として世界的に知られています。ソーデルベリ教授は、アジアにおける日本や日中関係、日韓関係をはじめ、日本・EU関係論など幅広い研究分野をお持ちで、中でも日本の海外援助政策に精通。スウェーデン、欧州における日本研究の重要な拠点である同大学の欧州日本研究所長もお務めになっています。



講演するマリー・ソーデルベリ教授

今回の講演会は、同年10月5日から11日の日程でスウェーデンを訪問した学校法人城西大学の一行が、ストックホルム商科大学にソーデルベリ教授を訪ねたことがきっかけで実現しました。その際、EUにおける欧州日本研究所の役割や最近の日本経済などについて広範な意見交換が行われ、学校法人城西大学とストックホルム商科大学との交流について継続的に話し合いを重ねていくことになりました。

今回の講演で、ソーデルベリ教授は具体的なデータを挙げてEUやスウェーデンと日本との経済の結びつきや日本の海外援助の特徴などについて話され、城西大学と城西国際大学の教職員や学生、留学生ら約100人がメ

モを取りながら熱心に耳を傾けました。城西大学と城西国際大学には経済・経営領域の学部が3学部あり、多くの学生と教員を有していることから、今後、ストックホルム商科大学との交流が進むことが期待されます。

## スウェーデン交流特別講演会

### 「Non-issueから世界会議へ」子どもの商業的性的搾取」

### 国際的対応の成果と今後の挑戦」を開催

講演会  
シンポジウム

日時：2014年11月28日  
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2014年11月28日、スウェーデンから日友好協会理事のカイ・レイニウス先生をお招きし、東京紀尾井町キャンパス3号棟国際会議場にて、特別講演会を開催しました。当日は、福祉総合学部の学生（3、4年生）、大学院生、教員および関係者を含め合計80名が参加し、国際的な福祉の課題について共に学び、共に考える有意義な機会となりました。

ンターネットの発達や紛争や貧困などにより、世界の子どもの状況は、むしろ悪化しているとの先生のご指摘に、観光学部、環境学部、メディア学部などを擁する総合大学として、法的対応や被害者支援、社会の意識向上など、学際的に取り組む必要性を再認識しました。

カイ・レイニウス先生は、1990年代より「子どもの商業的性的搾取（Commercial Sexual Exploitation of Children, CSEC問題）」という、深刻な、あまり表面化しない「子どもの人権問題」の根絶活動に積極的に取り組まれており、今回は、これまでの活動の経緯や世界会議が開催されるまでの各国の動き、この問題の現状と今後の課題について、わかりやすく、しかしながら熱く研究成果をお話いただきました。

また、ECPAT（End Child Prostitution in Asian Tourism, アジア観光における児童買春根絶キャンペーンを展開するNGO）での活動やCSEC問題に対して具体的な行動計画を策定している国は現在52か国にすぎず、イ



講演されたカイ・レイニウス先生

参加した学生からも、「国際的な子どもの人権問題についての意識をあらためて深めることができた」「世界各国の子どもたちの状況

況に關心を寄せるべき」などの感想が聞かれ、講演後のレセプションではレイニウス先生と活発な意見交換を行いました。

## 学校法人城西大学50周年記念・柄谷行人氏による講演会「山人と山姥」を開催

日時…2014年12月10日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



日時…2014年12月10日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2014年12月10日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）東京紀尾井町キャンパスのホールで、哲学者・評論家の柄谷行人氏による講演会「山人（やまびと）と山姥（やまんなば）」が開かれました。来年の創立50周年を記念したもので、多文化共生センターが主催し城西国際大学のジェンダー・女性学研究が共催しました。

柄谷氏は文芸批評から出発しながらも、マ



講演する柄谷氏

ルクスやカントなどを論じ、その枠に収まらない根源的思考を展開されてきました。今年1月、「山人」を捨て「常民」に向かったとされる柳田国男を考察した『遊動論 柳田国男と山人』（文春新書）を上梓されました。柄谷氏が講演されるのはまれですが、かねてから表現やジェンダーなどをテーマにした対談などで親交のある水田理事長が柄谷氏に依頼して講演会が実現しました。

柄谷氏は世阿弥の『山姥』や馬場あき子氏の『鬼の研究』（ちくま文庫）などを引きながら、「山人は山地民や平地民とは違い、定住に關心がない。柳田によると、いわば天狗のような表徴としての存在。また、山姥も野の女や里の女と異なり、やはり山人であるということ」を水田さんの論文から学んだ。「山姥は性差への反発もない、ジェンダーを超えた存在」などと話されました。ホールは教職員や学生、一般の方々らでほぼ満席となりました。柄谷氏の興味深い論考に熱心に耳を傾けていました。

講演会後は柄谷氏を囲んでレセプションが開かれ、和やかなひとときを過ごしました。柄谷氏と親しい、詩人で城西国際大学客員教授の吉増剛造氏は乾杯の挨拶で「今日の講演は革命的に面白く、果てしなく聴いていたい内容だった。城西大学でこんな素晴らしい人

のこんな良い話が聴けることは嬉しいことです」と述べました。

なお、柄谷氏と水田理事長らによる共同討議「日本文化とジェンダー（家父長制とその

## 学校法人城西大学創立50周年記念特別講演会・牧野成一氏による「日本語教育の新しい扉を開く」を開催

日時…2015年2月23日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



日時…2015年2月23日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2015年2月23日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は創立50周年を記念して城西国際大学の牧野成一特任教授の特別講演会「日本語教育の新しい扉を開く・ウチとソトの言語文化学による日本語教育の再構築」を東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開催しました。

牧野教授は、イリノイ大学 (University of Illinois) とプリンストン大学 (Princeton University) で長らく日本語と日本語学、日本文化を教えられ、日本語教育に大きな貢献をされました。2014年度からは、城西国際大学の特任教授として、「Global College」の授業や大学院人文科学研究科比較文化専攻（博士後期課程）での講義も担当されるなど、グローバルな教育に携わっていただいています。

城西国際大学では、多くの留学生が日本語を学んでいます。日本語教育のスタッフは、さまざまな背景を持った日本語学習者に対応するため、海外提携大学の日本語担当教員とも互いに学び合い、教授法の工夫を重ねています。その日本語教育を向上させる一環として、今回の特別講演会が開か

批判」から始めて」は『家父長制とジェンダー』（水田宗子編・学校法人城西大学出版会、2014年2月刊）に収録されています。

今回の講演で牧野教授は、アメリカでの長年にわたる豊富な実績と独自の視点を基に新たな日本語教育を提言されました。ホールでは城西国際大学の教職員や学生、留学生ら160人が熱心に聞き入りました。



牧野成一特任教授の講演会の様子



## 学校法人城西大学創立50周年記念特別講演会・

### 清水義明氏による講演会を開催

講演会  
シンポジウム

日時…2015年2月24日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2015年2月24日、学校法人城西大学は創立50周年を記念した特別講演会「伊藤若冲の諸作品と仏教の『本覚思想』の主張」を東京紀尾井町キャンパス3号棟で開催しました。日本美術史の第一人者である米アプリントン大名誉教授（美術・考古学）の清水名譽教授に、江戸時代中期に活躍した絵師・伊藤若冲の諸作品の宗教的側面についてお話いただきました。伊藤若冲（1716～1800年）は、京



若冲の作品を説明する清水名譽教授

都の錦小路の青物問屋の長男に生まれましたが、40歳で弟に家業を譲り、以後画業に専念しました。光琳の装飾画風を取り入れるなどして独特の造形感覚による個性的な画風を生みだしました。写実的な動植物の絵も多く「奇想の画家」として知られます。また「本覚（ほんがく）思想」とは、悟りはずもともと一切の衆生に本来的に具有されているとの考えで、主に天台宗を中心として仏教界全体に広まったとされます。

国際会議場で開かれた講演会で、水田宗子理事長は「50周年を記念した講演会で講演していただくことになり大変光栄に思います」と挨拶しました。清水名譽教授はスライドで若冲の諸作品やさまざまな涅槃図を紹介しながら「芸術的な若冲の諸作品に宗教的な意味合いが交差する。それが若冲作品の価値で、本覚思想につながっていく」などとお話しになりました。

会場では城西大学、城西国際大学の教職員のほか、エクステンション受講者の皆さんなど約100人が熱心に耳を傾けました。

## 学校法人城西大学創立50周年記念特別講演会・ラーシュ・

### ヴァリエ氏による「世界の中の俳句」を開催

講演会  
シンポジウム

日時…2015年3月27日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2015年3月27日、学校法人城西大学

（水田宗子理事長）は創立50周年を記念して



講演するラーシュ・ヴァリエ氏

前駐日スウェーデン大使、ラーシュ・ヴァリエ氏の特別講演会「世界の中の俳句」を東京紀尾井町キャンパス3号棟で開催しました。ヴァリエ氏は、スウェーデンのウプサラ大学（Uppsala University）東洋学科を卒業。駐日スウェーデン大使館勤務時に京都大学文学部国史学科で学びました。ストックホルム大学から日本古代史の研究により博士号を取得。その後、駐韓スウェーデン大使を経て2011年から2014年まで駐日スウェーデン大使を務め、2014年に日本国の旭日大綬章を受章されました。日本文学の翻訳のほか、句集など多数を出版され、退官後は城西国際大の特任教授に就任いただきました。

講演に先立ち、日本スウェーデン協会の会長

を昨年から務める水田理事長は挨拶で「日本と東アジアの文化を世界に広めていただいた」とヴァリエ氏を称えました。ヴァリエ氏は日本語で行われたこの日の講演で、イギリスの文学者で日本文化研究者のレジナルド・ホーラス・ブライス（1898～1964年）に代表される、日本の俳句や川柳を西洋に紹介した多くの文学者を紹介したうえで、「西洋の詩の中にも俳句の雰囲気を見つけることができる」などと例を挙げて説明されました。また、さまざまな西洋の文学者や子どもたちの句を紹介し、「西洋の学校でも俳句を教えているが、子どもたちの句の中に俳諧のスピリッツやユーモアを感じるができる」と結ばれました。

講演会には両大学の教職員や国際俳句交流協会の会員の皆さん、エクステンション受講者の皆さんら約100人が参加。興味あふれるヴァリエ氏のお話に耳を傾けました。

なお、詩人でもある水田理事長は2013年12月、スウェーデン政府より生命の尊厳を表現する東アジアの詩人に贈られるチカダ賞を受賞しました。受賞を記念して2014年6月、ヴァリエ氏や国際俳句交流協会の有馬朗人会長も参加した国際シンポジウム「生命の尊厳を表現すること」を開催しました。その模様は「チカダ賞受賞記念国際シンポジウム…生命の尊厳を表現すること」（学校法人城西大学出版会、2015年1月刊行）に収録されています。

## 本学にて「第2回V4+日本学生会議」を開催

講演会  
シンポジウム

日時…2015年2月10日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2015年2月10日に、学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス3号棟5階国際会議

場にて本学主催による「第2回V4+日本学生会議」が開催されました。



活発な質疑応答



挨拶するコットマン大使

冒頭、水田宗子理事長に続き、V4議長国であるスロバキアのミハイル・コットマン駐日大使がご挨拶をされました、他の在日外国

### セッション1

Economic Implications of Regional Integration: Contrasting Responses to Increased Contacts and Exchanges

### セッション2

Individual and Group in an Era of Cross-Border Migration

### セッション3

The Challenge of Globalization to National Identity

公館からはEU代表部のヴィオレル・イステイチョアイア「ブドウラ大使、トマーシユ・ドゥブ駐日チエコ大使、イシュトヴァーン・セルダハイ駐日ハンガリー大使、ヘレーナ・ドルノウシエク「ブルコ駐日スロヴェニア大使、ミロスワフ・ブワシユチャツクポーランド広報文化センター所長がご出席ください、その他、本学および本学と学術交流協定を締結しているV4の学生・本学への留学生、教員、企業関係者ら100人が参加しました。

本年は、V4諸国の本学の提携校である、マサリク大学 (Masaryk University, チェコ)、エトヴェシユ・ロラーンド大学 (Eötvös Loránd University, ハンガリー)、ワルシャワ経済大学 (Warsaw School of Economics, ポーランド)、コメニウス大学 (Comenius University in Bratislava, スロバキア) から6人を招聘し、全体として、「グローバル化時代の多文化共生」といふどの地域や国にとっても共通のテーマを掲めました。その中で、第1セッションは国を超えた地域の発展にとつての多文化共生の重要性について、第2セッションは人の移動が容易な時代において、自国や自地域を離れて生きる人たちのことばや文化の問題について、第3セッションはマイノリティのアイデンティティの問題に焦点を当てて議論を行いました。

また、昨年と同様に今年も、スロバキアの首都ブラティスラヴァに本部を置き、4か国が共同で運営にあたり、V4地域内外の学術交流や環境問題の解決のための補助金を公募

している国際ヴィシエグラード基金 (I V F) の助成金の公募に申請し、V4諸国以外 の案件で唯一採択されました。会議に参加した本学の学生・院生は、多文化

2015年3月11日、学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス地下ホールにおいて「V4 (ヴィシエグラード4) + 日本」科学技術セミナーが、外務省、V4諸国、本学の共催により開催されました。

中欧のチェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキアの4か国は、各国間の友好と協力を進めることを目的とした枠組みとして「ヴィシエグラード・グループ」を形成しており、グループの総称として「ヴィシエグラード4か国 (V4)」とも呼ばれています。

日本でも「V4+日本」として、V4との対話・協力を推進しており、外務省が経済、環境、開発協力・エネルギー効率等のトピックスに関する各種セミナーを行ってきました。

また、本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めるなか、特に中欧地域との教育交流を強化しています。

同セミナーを本学が共催で行うのは今年で3回目になりますが、今回はV4議長国であるスロバキアからの提案で、「科学技術」をテーマとして実施し、第3セッションでは、城西大学の杉林副学長が、「Global Communication and Collaboration in



## 本学にて「V4 (ヴィシエグラード4) + 日本」科学技術セミナーを開催

日時：2015年3月11日  
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

社会の典型であるV4諸国の現状や問題点を聞き、議論することを通じて、今後いつその多文化社会の実現を目指す日本の現状や将来展望について、考えを深めることができました。



パネリストらによる記念写真

Pharmaceutical Education and Sciences (薬学における国際交流と協働)」について講演されました。

セミナーには、外務省をはじめ、駐日V4各国大使館員、日本学術振興会、科学技術振興機構、本学関係者、学生、有識者、本学のグローバル教育を支援していただいている企業の方々ら、約150名が参加しました。



## キャンパス機能強化

### 国際学生寮 安房グローバルヴィレッジ(仮称)の

### 起工式を挙行

日時…2014年12月1日  
場所…城西国際大学国際学生寮安房グローバルヴィレッジ(仮称)



2014年12月1日に、「城西国際大学国際学生寮 安房グローバルヴィレッジ(仮称)(以下、AGV)」の起工式を行いました。

AGVは、主に留学生を対象とした収容人数約100名の学生寮で、建物で中庭を囲むような構造が特徴となっており、学生同士や地域との交流などに資する空間を設けています。竣工は2015年7月を予定。同年9月の後期授業開始にあわせて留学生が入居できるような準備を進めます。

AGVの竣工により、グローバルな視野を持った観光人材育成を実現するとともに、地域との交流もさらに充実させて参ります。



安房グローバルヴィレッジ起工式

### 東京紀尾井町キャンパスに5号棟がオープン

日時…2015年2月12日  
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



学校法人城西大学は、創立50周年の記念事業として東京紀尾井町キャンパスに新校舎の

5号棟をオープンさせました。2015年2月12日には、教職員、理事ら

大学関係者や同窓生らが集まり、オープニングのテープカット式が行われました。

水田宗子理事長が「おかげさまでたくさんのお客様が、学生・院生が紀尾井町キャンパスに集まり、学ぶようになりました。50周年の記念事業としてシンポジウムなども予定されています。入試・就職関連の活動も盛んに行われています。5号棟は、そうした受け皿になるとともに同窓会活動の拠点にもなるでしょう」と挨拶されました。

続いて鈴木文雄・城西大学同窓会長が「日本の心臓部ともいえるこの地で、同窓生に対する情報の受信・発信していきたい。同窓会室をその基地にして活用し、大学の発展のために応援していきたい」と述べました。

5号棟は、地下1階、地上5階建てで延べ面積は約1400㎡。1階には、入試・広報センター、維持協力会・父母後援会・同窓会室があります。2階から4階には、ミニ・シアター、セミナー室、学習室などが設けられています。5階は、海外姉妹校からの長期滞在者用のゲストルームを設けてあります。

東京紀尾井町キャンパスは、2005年に開設されました。城西大学、城西短期大学の

## 表彰

### 水田理事長へ日本商工会議所より表彰状を授与

日時…2015年2月10日



水田宗子理事長が、2015年2月10日、日本商工会議所より表彰状を授与されました。

城西国際大学が、第1回から10回連続して、全国簿記高等学校競技大会の実施なら



テープカットの様子

坂戸キャンパス、城西国際大学の東金・安房キャンパスを結んでいます。講義室や就職活動の支援など学生への幅広い支援のための施設を備えているほか、教室、国際学術文化交流センター、国際会議室などを設置、研究、国際交流の場となっています。現在、学生、院生ら約2千人が学んでいます。

●周辺図



アクセス インフォメーション

- 東京メトロ有楽町線 麹町駅 1番出口より徒歩3分
- 東京メトロ半蔵門線・南北線 永田町駅9a番出口より徒歩5分
- 東京メトロ丸ノ内線・銀座線 赤坂見附駅D出口より徒歩8分
- JR中央線・総武線 四ツ谷駅より徒歩10分



びに、日本企業が世界から早期に導入を求められている 国際財務報告基準 (IFRS: International Financial Reporting Standards) を研究し、毎年、先進的な発表を行うなど、簿記会計分野において広く貢献したこと、加えて、日商簿記検定の普及と発展に寄与してきたことが高く評価を受けました。

その功績をたたえ、城西国際大学の創立から現在まで、卓越した先見性と一貫した教育理念をもって陣頭指揮をとって来られている水田理事長に感謝を込めて、表彰状を授与いただきました。

本学としてもさらにこの分野に貢献し、学生の能力向上に力を尽くしてまいりますと考えております。

商工会議所とは

商工会議所とは、民間の工商業者の自主的な意思により、工商業者自らが組織している団体で、歴史は古く1599年にフランス・マルセイユで設立されたのが起源とされています。現在、日本では商工会議所法が規定され、日本各地に514の商工会議所があり、会員総数は126万社を数えます。日本商工会議所は、それら全国の商工会議所を統合調整し、その意見を代表する組織です。その事業としては、各種の政策提言や中小企業の活力強化、地域経済の活性化等多岐にわたりますが、その中の一つとして、日商簿記検定などの検定試験による産業人材の育成支援があります。



日本商工会議所より感謝状を贈呈

学校法人 城西大学



〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26 TEL.03 (6238) 1300

学校法人 城西大学 <http://www.josai.jp/>

城西大学 <http://www.josai.ac.jp/> 城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26

TEL 03 (6238) 1300 FAX 03 (6238) 1299